日本気象学会昭和34年度

総会議事録

日　時　昭和34年5月21日　11.00～12.40
場　所　気象庁　大会議室
出席普通会員　90名
委任状総数　226名

5月1日調べで普通会員は1,570名（A会員1,190名，B会員380名）で，定款第36条による最低出席者63名，委任状を含めた出席総数314名の条件を満しているので総会は成立．

次に議長は出席会員の互選によるのであるが，例により和達大会委員長を推すことを一同に計り，満場一致同氏と決定した．

和達清夫氏が議長席につき，総会が開始せられたが，その内容は次の通りである．

(1) 挨拶　畠山理事長

(2) 学会賞贈呈　〃

（内容別記参照）

こゝで気象庁の都合により庁内大手球場において記念撮影を行う．

(3) 昭和33年度事業経過報告　淵理事

(4) 昭和33年度収支決算報告　吉武理事

異議なく承認された．因みに上記の中50万円を基本金に繰り入れる件は既に理事会の承認を得ており，定款第47条が適用されることになる．

(5) 75周年記念事業33年度収支決算報告　吉武理事

異議なく承認された．

(6) 本年度事業計画案並びに予算案審議　吉武理事

大谷理事から支部交付金に関し，支部における通信費増額方の提案があり，図書購入費から廻すことをきめ，他は原案通り可決された．

(7) 提出議題審議

(イ) 理事長名で推せんする朝日賞等の候補者の推せん方法について

滑川関西支部長から提案理由の説明があり，本部において細則を作成し全理事で決めることとなった．

(ロ) 日本学術会議第5期会員候補者推薦方法に関する件

淵理事から提案理由の説明があり，種々の意見が活溌に議論されたが，結局賛成と不賛成(棄権を含む)と同数となり，議長裁決で次のとおり可決された．

日本学術会議事務局と連絡の上全会員の投票により推せんすることとし，具合悪き場合は全国理事会に委任することとする．

なお正式議題ではないが，学会主催の国際数値予報シンポジウムの開催に関し正野理事から説明があり，正式の決議ではないが，一同賛意を表することとなった．

(8) 秋季大会に関する件

倉石九州支部長からスケジュールの説明があり11月7日，8日九大農学部防音教室で開催することとなった．

(9) 来年度の当番支部に関する件

滑川関西支部長から来年度の当番は関西支部で担当し，詳細は追って支部で協議の上報告する旨説明があった．

昭和34年度日本気象学会賞受賞者

雷雲の電気的構造および電光放電機構の研究

北川信一郎　小林正治
(気象研究所　地球電磁気研究部)

電光放電のうち落雷放電については B. F. J. Schonland 等の研究により，その細部機構がかなり解明されているが，雲間放電機構の研究が残された問題として，近年各国のこの方面の研究者の研究目標の一つとなっている．北川信一郎・小林正治両君は，各国にさきがけ，高時間分解能の電場変化，光度変化記録器を考案作製し，1953年から6カ年にわたり観測を継続し，各放電過程の微細構造を明らかにした．そのうち特に注目されるのは，落雷放電にも雲間放電にもそのJ—過程 (Junction Process) 中にK変化といわれる電場の小規模な急激な変化が認められ，両放電機構の類似性を指摘しえた点である．このK変化は落雷および雲間放電の雷撃間に雲中を進行する放電過程にあらわれるもので，両君の発見したところである．

この事実にもとづき雲間放電機構と雷雲中の電荷分布につき統一した推論を導き出しているのが示唆に富むものである．

さらに，落雷の第一電撃前駆放電の開始部についても D.J. Malan 等の研究と呼応し，従来の知見を著るしく進展させた．

上述のように，北川，小林の両君は気象学の重要な問題の一つである雷雲の電気的構造および電光放電機構に関し優れた研究業績を上げ，気象学に貢献すること極めて顕著である．よって本学会は同君等に学会賞を贈ってその顕著な業績をたたえる次第である．

N. Kitagawa: On the Electric Field-Change due to the Leader Process and Some of their Discharge Mechanism.
Papers. Met. Geophys. vol. 7 No. 4 1957.

N. Kitagawa: On the Mechanism of Cloud Flash and Junction or Final Process in Flash to ground.
Pagers. Met. Geophys. vol. 7 No. 4 1957.

M. Kobayashi and N. Kitagawa: Recording Apparatus for Use in Studies of Field-Change due to Lightning Discharge.
Papers. Met. Geophys. vol. 8 No. 1 1957.

M. Kobayashi, N. Kitagawa, T. Ikeda and Y. Sata: Preliminary Studies of Variation of Luminosity and Field-Charge due to Lightning Flashes.
Papers. Met. Geophys. vol. 9 No.1 1958.

台風進路の客観的予報法の研究

増田善信　伊藤　宏
(気象庁予報部　電子計算室)

台風の研究では「台風は一般流に流される」という経験事実を数値的に表現し，具体的な予報に適用した佐々木，都田両氏のすぐれた業績がある．増田，伊藤両氏は佐々木，都田両氏の方法で考慮に入れられていない台風と一般流との相互作用を考慮に入れた予報法を研究し，台風進路の客観的予報を大いに発展させた．特に増田氏は今までの数値予報で用いられていた地衡風近似の精度を高める方法を研究し，台風固有の場と一般流との干渉という物理的にも数学的にも複雑な問題を巧妙な方法で切りぬけ，今までの方法によるよりもより一層実際に観測されるものに近い一般流を数値的に求めることに成功した．

さらに，増田，伊藤両氏は実際的予報の見地から，小型電子計算機を用いて，数多くの不利な条件のもとで台風進路の客観的予報法に貴重な貢献をした．

両氏の貢献はこれからの計算機による台風の進路予報について重要な基礎になった．

両氏の方法には大気はバロトロピックであるという大きな仮定もあり，今後改善すべき多くの点を持っているが，経験的によく知られた一般流の概念を定量化した功績は大きい．

よって本学会は同君等に学会賞を贈ってその顕著な業績をたたえる次第である．

H. Ito and Y. Masuda: The numerical prediction of the typhoon movement by the relay computer. Papers in Meteorology and Geophysics, Vol. 7, No. 4, 1957.

Y. Masuda: On a method for solving the balance equation in the typhoon region, Papers in Meteorology and Geophysics, Vol. 8, No. 1, 1957.

Y. Masuda and H. Ito: The use of a stream function for the barotopic forecast of the typhoon movement. Journal of Meteorol. Soc. of Japan, 75th Anniversary Volume 296-303 1957.

Y. Masuda: The borotropic forecast of typhoon movement by making use of stream function. Journal of Meteorol. Soc. of Japan, 2nd Ser., Vol. 36, No. 2, 1958.

日本気象学会会計報告

昭和33年度収支決算書

収入			支出		
会費	3,050,218円	預金利子，文部省用語委員会経費等	印刷編集費	2,366,462円	
雑誌，図書頒布	836,526		気象集誌	(662,582)	36巻1号～37巻1号
気象研究ノート	(786,763)		天気	(1,022,880)	5巻4号～6巻3号
雑図書	(49,763)		気象研究ノート	(681,000)	9巻2号～10巻1号
雑収入	100,124		頒布図書購入費	58,345	
仮受	3,050		発送通信費	234,370	
前期繰越金	69,038		会議費	123,482	
			大会，総会費	(41,126)	
			役員会費	(63,106)	
			例会費	(19,250)	
			学会賞費	24,000	
			支部交付金	54,650	
			事務費	447,097	
			職員給与	(164,300)	
			物品印刷費	(114,314)	
			雑経費	(133,261)	用語委員会経費を含む
			事務手数料	(35,222)	
			基本金（繰入）	500,000	
			仮払	3,050	
			後期繰越金	247,500	
合計	4,058,956		合計	4,058,956	
基本金	150,000	変化なし			
職員退職積立金	20,000				

75周年記念事業昭和33年度収支決算書

（自 昭和33年5月1日 至 昭和34年4月30日）

収入		支出	
	円		円
記念論文集代	116,246	記念論文集欧文編印刷費（未払分の内金）	350,000
別刷代	67,845		
寄附金	110,900	後期繰越金	51,131
広告掲載料	35,000		
前期繰越	21,140		
合計	401,131	合計	401,131

昭和34年度収支予算書

収入			支出		
会費	2,555,400円		印刷編集費	2,494,800円	
A会員	(1,285,200)	(1,080円×1,190人)	気象集誌	(658,800)	37巻2号～38巻1号
B会員	(775,200)	(2,040円×380人)	天気	(1,116,000)	6巻4号～7巻3号
団体会員	(495,000)	(1,500円×330件)	気象研究ノート	(720,000)	10巻2号～11巻1号
雑誌，図書頒布	977,800		図書購入費	59,000	
気象研究ノート	(760,000)	(800円×950人)	発送通信費	234,400	
その他	(217,800)		会議費	167,000	
雑収入	100,000	銀行利子，助成金等	総会，大会費	(50,000)	
前期繰越金	247,500		役員会費	(62,000)	
			例会費	(30,000)	
			外国委員会費	(20,000)	
			選挙管理委員会費	(5,000)	
			学会賞費	28,000	
			支部交付金	102,000	
			事務費	446,500	
			職員給与	(116,500)	
			物品印刷費	(100,000)	
			雑経費	(100,000)	
			事務手数料	(70,000)	
			図書整理費	(60,000)	
			予備費	100,000	
			次期繰越金	249,000	
合計	3,880,700		合計	3,880,700	
基本金	650,000				
職員退職積立金	20,000				

75周年記念事業昭和34年度予定

収入		支出	
	円		円
未収論文集代	30,220	記念論文集欧文編印刷費未払残金	170,590
別刷代	4,095	別刷代	71,940
記念論文集在庫	92,100		
寄附金	64,984		
前期繰越金	51,131		
合計	242,530	合計	242,530